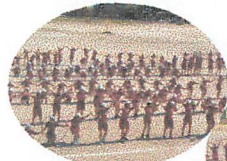




10月は学びの季節です

10月も中旬に入り、すっかり秋めいてきた今日この頃ですね。朝露に濡れた草の葉が朝日に輝き始める頃、『おはようございます!』という子どもたちの元気な声が校内に響き始めると、学校は一気に目覚めたように子どもの世界になります。

学校では、来週には市の総合体育祭東部地区大会を控え、5、6年生の子どもたちは演技の仕上げや各競技の練習に余念がありません。東部地区大会では、これまでの練習の成果を発揮して、素晴らしい演技、各競技での自己ベストをめざしてがんばって欲しいと思います。



○演技練習や行進練習もがんばってます。



○より速く・・・



○より高く・・・



でも大切なことは、ここに至るまでの道のりです。9月のまだ残暑厳しい頃から始めた練習でしたが、今年は今年なりの創意工夫をかさねた演技づくりをしてきました。何しろ今年の演技では輪が空を舞い、隊形も昨年度までとは変わっています。今年の演技は昨年度に負けず劣らず素晴らしいものとなっていますので、ぜひ会場で見たいです。会場でお待ちしています!

総体関連のお知らせとお願い

- 総体開催日時
○10月18日(火) 9時より
※延期の場合、連絡網でお知らせいたします。その際は、平常日課です。ただし弁当を持たせて下さい。
※雨天の場合は21日又は26日に延期
- 本校の演技開始時間：10時頃開始の予定
※3番目に演技をします。先のお知らせでは11時頃となっていました。お詫びして訂正いたします。
- 会場までは自動車や自転車での来場はご遠慮下さい。
- 観覧は保護者席でお願いいたします。

コラムまがたま

○『読書の秋』に思うこと

朝晩すっかり涼しくなり、夜には虫の声が部屋の中からも聞こえてくるようになりました。秋だなあと感じる日が多くなったと思うのは私だけではないでしょう。

まさに「灯火親しむ」という言葉がなじむ季節、「読書の秋」ですね。

子どもたちは、毎日というわけにはいきませんが、読書指導員や図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせを受けています。子どもたちは目を輝かせて話に聞き入っているようです。子どもたちは本が好きなんです。



本にはテレビには替えられない魅力があるように思います。今や電子ブックの世の中に変わりつつあるけれど、本を手にとり、インクの微かな香を感じながらページをめくって文字の世界に入り込んでいくところに安らぎを覚えるのですが、皆さんはいかがですか。

静かに更けゆく秋の夜長に、親子で読書三昧なんてとても風情があつていいと思うので

すが、どう思われますか?

とはいっても、実は本校の図書館の蔵書数は、本校の児童数に対して非常に少ない状況です。子どもたちが読みたい本が十分用意されていないのがとても残念です。昨年度末にも特別予算で100万円分の図書を購入したのですが、まだまだ不十分なのが現状です。

かといって、これ以上図書が増えても図書室は狭く書架も不足しているので置き場所がありません。困ったものです。

子どもたちにどんどん本を貸し出して、読書三昧の日々を送って欲しいのですがとても残念です。せめて朝の読書に時間や図書室利用の時間、読み聞かの時間を有効に活用して本に親しんで欲しいと思います。

また「まがたま第8号(通算15号)」でお知らせしたように図書の電算化を進めているのですが、システムは未だに稼働できない状態が続いています。どうやら入力作業量が膨大なため、簡単にはデータが反映できないようです。

担当課に確認したところでは、最大12月ぐらいまでシステムの稼働が伸びる可能性もあるとのことでした。他の学校でも入力作業中とのことですので、今しばらくは図書管理システムの稼働はお預けになりそうです。でもシステムが動き出せば図書館の本は簡単に貸出や返却ができるようになり、利用しやすくなります。その日をお楽しみに!

子ども達と教師である友達への手紙 深澤義晃

十月

なにか一つのよろこびを

校門を「おはよう」って通ったら、今日また何か一つは学習しよう。

学習するとは、さっきまで知らなかったことを知ること。わからなかったことがわかること。できなかったことが、できるようになること。調べ方がわかること。考え方がわかること。

それから 今日また何か一つは、よいことをしよう。よいことは、まだある。それは、よいことをすると、だれにも、ほめられなくても、なんとなく嬉しくなってくるようなこと。ゴミを一つひろつても、よごれたところをきれいにしても、人に言われてするのでなく、自分で見つけて自分ですると嬉しくなる。その嬉しさは、神様がくださるごほうびだ。

校門を「さようなら」って通ったら、今日は何を学んだか、思い出してみよう。今日はどんなよいことをしたか、思い出してみよう。

すぐに思い出せる子は、だれにもかわいがられる子。何か一つだが、深い喜びを大切に持って帰ろう。

